

## 情報教育 20年 JSiSE × JAEIS 連携企画 「Slow Thinking で見据える情報教育の理想の未来像」

### <趣旨>

高等学校で必修教科「情報」が新設されてから20年が経過しました。新設当初は3科目からの選択必修であった教科「情報」は、2度の学習指導要領の改訂を経て現在、単一の科目「情報I」の必修を、文理を問わず全員に課すものとなりました。2025年度には、「情報I」を履修した生徒らが大学に入学します。また、2025年度の入試から、「情報」が共通テストに参入されます。

一方、大学では、文理を問わず、全員が身に付けておくべきデジタル社会の基礎的な素養として、初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得することが、政府の「AI戦略2019」において求められ、これを受け、さまざまな大学で、一般教育としての情報教育の学習構成にも変化が出ています。

世界に目を向けると、欧州評議会は、「デジタル技術の利用を通じて社会に積極的に関与し、参加する能力」である「デジタル・シティズンシップ」教育を子供たちに実施する必要性を掲げています。またEUでは、生成AIを含む包括的なAIの規制であるAI規制法が2024年5月に成立し、2030年末までに段階的に施行されます。このような情報技術の進展に伴う教育や法に関する国際的な流れは、今後、上述した日本における情報教育をさらに変化させていくものとも考えられます。

本シンポジウムでは、ご経験豊かな4名の先生をお招きし、このような激動する情報教育の背景と教育現場を踏まえつつ、近未来を見据えての「Slow Thinking」で、情報教育の理想の未来像を探ります。また、パネルでは、学習者視点および教授者視点での「Slow Thinking」の必要性についても議論する予定です。

### 登壇者略歴

#### ■登壇者：西野和典（太成学院大学・教授）

登壇者略歴等：1978年、九州大学理学部卒業。同年4月から2000年3月まで22年間、大阪府立高校の教諭として理科教育及び情報教育に携わる。1998年、兵庫教育大学大学院学校教育研究科修了。修士（学校教育学）。2000年、大阪電気通信大学総合情報学部にて専任講師として着任。2004年、九州工業大学情報工学部助教授を経て、2008年、同大学院情報工学研究院教授。情報教育、教育工学の研究のほか同大学の教育改革に携わる。2020年、同大学名誉教授。2020年4月より太成学院大学経営学部教授、現在に至る。1992年、CAI学会（現教育システム情報学会）に入会。2001年、教育システム情報学会情報教育研究部会代表幹事、2004年、同学会情報教育委員会委員長、学会誌編集委員会幹事。2019年、教育システム情報学会功労賞。2007年、日本情報科教育学会の設立に関わり、2007年～2016年、同学会副会長、2018年～2022年、会長を務める。

#### ■登壇者：井手広康（愛知県立旭丘高等学校・教諭）

登壇者略歴等：愛知県立大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了、博士（情報科学）。主にプログラミング教育やデータサイエンス教育に関する研究に従事。情報処理学会 情報処理教育委員会 委員、同会 初等中等教育委員会 幹事、同会 情報科教員・研修委員会 副委員長、日本産業技術教育学会 理事、同会 実践事例書籍編集委員会 副委員長、日本情報科教育学会 理事、同会 情報科教育連携委員会 委員長、同会 全国大会委員会 委員、同会 東海中部支部 副支部長、文部科学省 学校DXアドバイザーなどを務める。情報処理学会では、FIT論文賞（2017）、ベストポスター賞（GPW-17）、山下記念研究賞（2022）、最優秀発表賞（SSS2023）、学会活動貢献賞（2024）など受賞。

■登壇者：兼宗 進（大阪電気通信大学・副学長・工学部長・教授）

登壇者略歴等：1987年千葉大学工学部卒業。1989年筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了。2004年同大学大学院ビジネス科学研究科博士後期課程修了。博士（システムズ・マネジメント）。2004年一橋大学准教授，2009年大阪電気通信大学教授，2021年工学部長，2022年副学長，現在に至る。プログラミング言語と情報教育の研究開発に従事。2016年情報処理学会山下記念研究賞受賞。情報処理学会フェロー。ACM会員。

■登壇者：金子美（韓国高麗大学校教育大学院コンピュータ教育専攻・准教授）

登壇者略歴等：1992年梨花女子大学文学士(教育学科)取得，1995年同大学大学院で教育課程及び評価専攻，文学修士取得，2011年高麗大学大学院でコンピュータ教育学博士(理学博士)取得。2014年北海道大学特任教授を経て，2015年4月から高麗大学教育大学院コンピュータ教育専攻の准教授として在職中。情報教育に関し，アメリカ，日本，中国，ドイツ，イギリス，イスラエル，インドなど様々な国の教育課程を分析する多数の研究を実施。大学の教育課程では，ACM/IEEEのComputing Curricula 2001/2005/2020などを研究し，日本のJ07/J17などの研究を通じて韓国の大学で情報教育の基礎を構成するなど，情報教育に関して幼児から大学に至るまでの全般的な研究を進行。2022年韓国の改正教育課程で情報科教育課程の研究責任者を務め，デジタルリテラシーの内容体系を構成。韓国の情報教育政策、AIデジタル教科書政策など様々な政策研究を行う。

■司会：布施 泉（北海道大学）

#### コーディネータ

布施 泉（北海道大学）

浅羽修丈（北九州市立大学）

山川広人（公立千歳科学技術大学）

永田奈央美（静岡産業大学）